

資料 在・運 4-5
仕様書連携・特記仕様書連携について(案)

部会2 在り方・運用合同部会 第4回

BLCJ

NBS Chorusについて(その1)

The screenshot displays the NBS Chorus website and its mobile application. The website header includes navigation links for 'NBS FOR SPECIFIERS', 'NBS FOR MANUFACTURERS', 'NBS CHORUS', 'NBS SOURCE', 'UNICLASS 2015', '0345 456 9594', and 'SIGN IN / REGISTER'. The main navigation bar features 'NBS', 'Platform', 'Resources', 'Support', 'Events', and 'About', along with a search bar labeled 'Search theNBS.com'. The central content area highlights 'NBS Chorus' as 'Intelligent construction specification, in the cloud', with the tagline 'Work smarter and safer, collaborate better, and connect your workflow'. Two buttons, 'Watch video' and 'Sign in', are provided. Below this, a large image shows a desktop monitor, a tablet, and a smartphone, all displaying the NBS Chorus interface. A 'ROI Calculator' pop-up is visible in the bottom right corner, stating: 'Our ROI tool will help you gain a clearer understanding of the business benefits that you may be able to achieve by using NBS Chorus as your specification platform. What could you save?'. The bottom of the image shows a Windows taskbar with various application icons and a system clock indicating 23:37 on 2020/12/16.

NBS Chorus

Intelligent construction specification, in the cloud

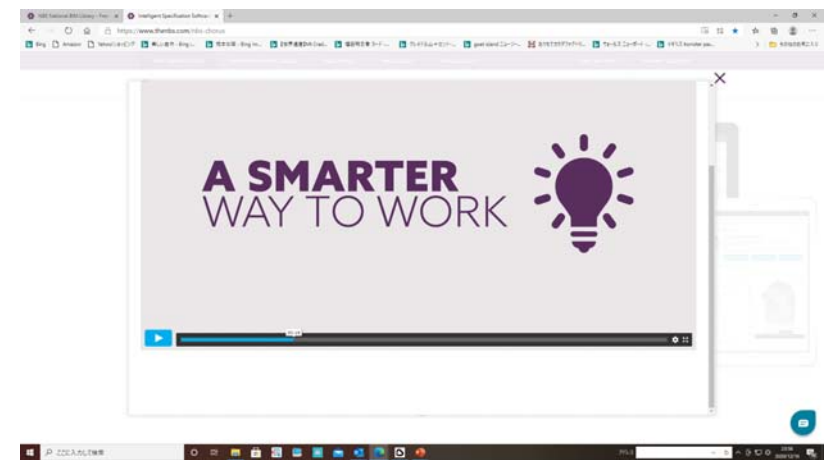
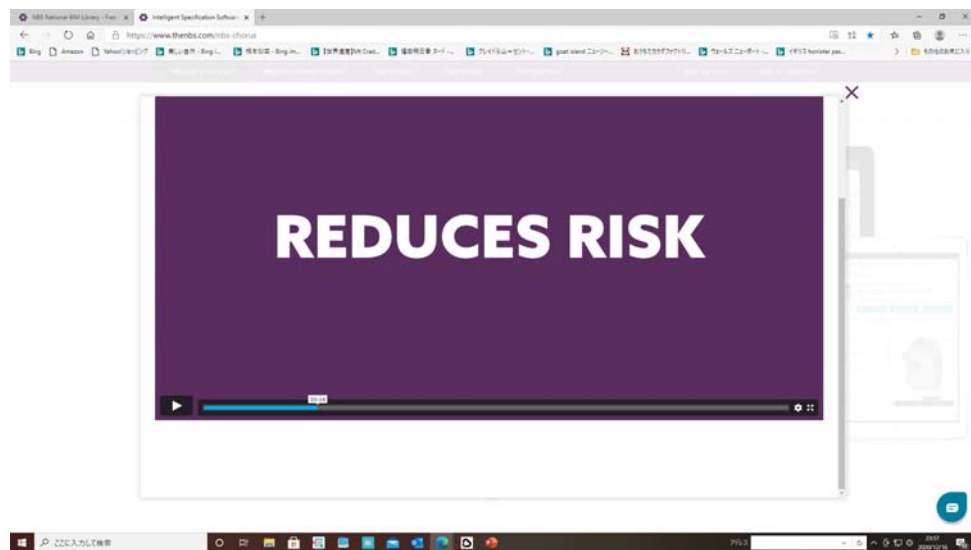
Work smarter and safer, collaborate better, and connect your workflow

Watch video Sign in

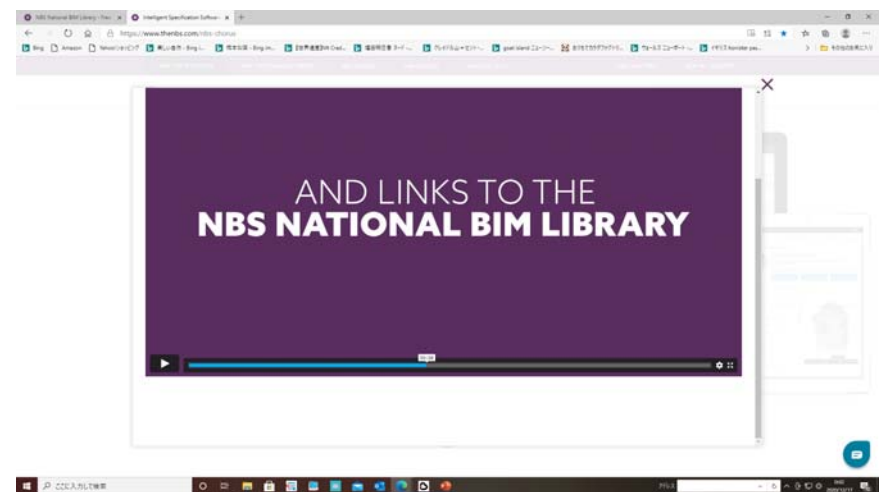
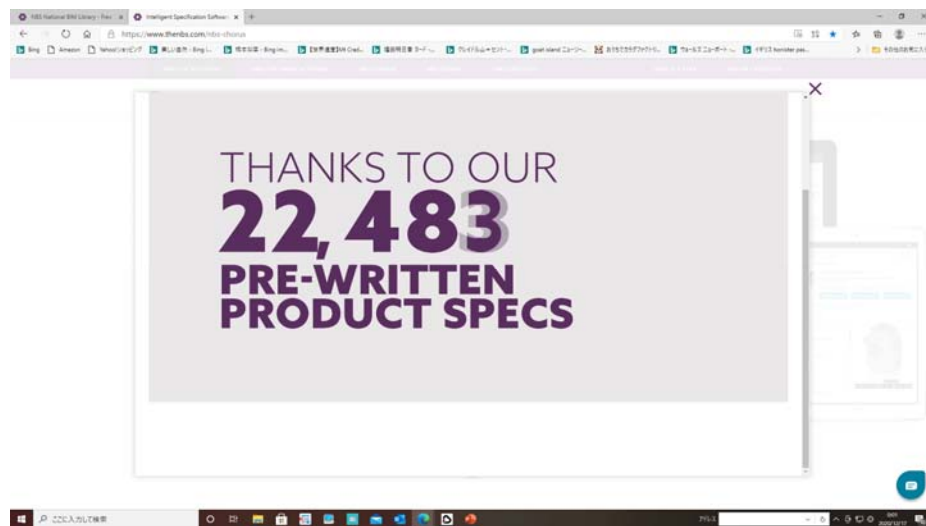
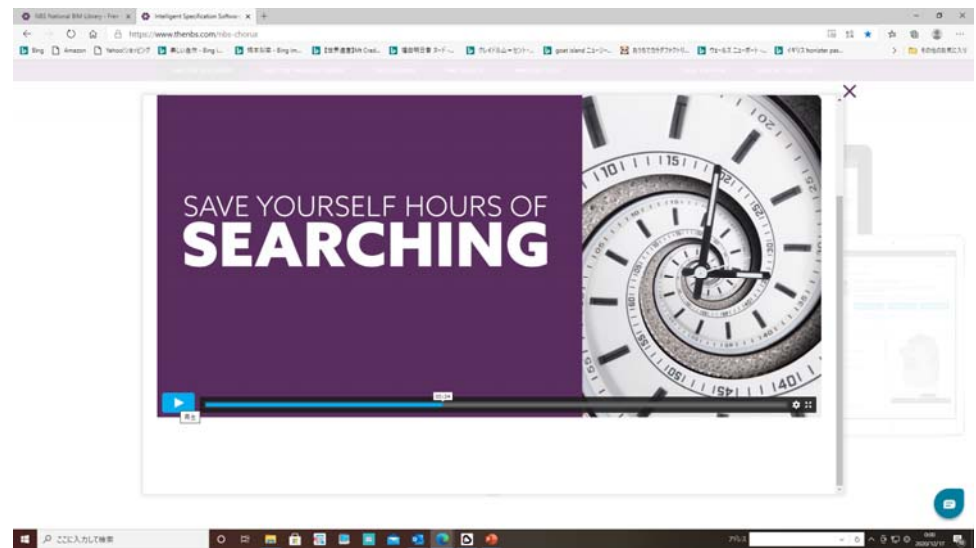
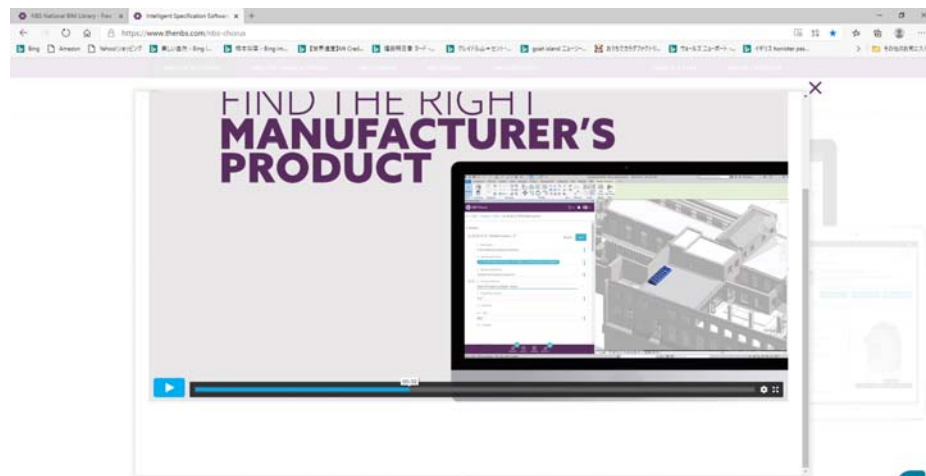
ROI Calculator

Our ROI tool will help you gain a clearer understanding of the business benefits that you may be able to achieve by using NBS Chorus as your specification platform.

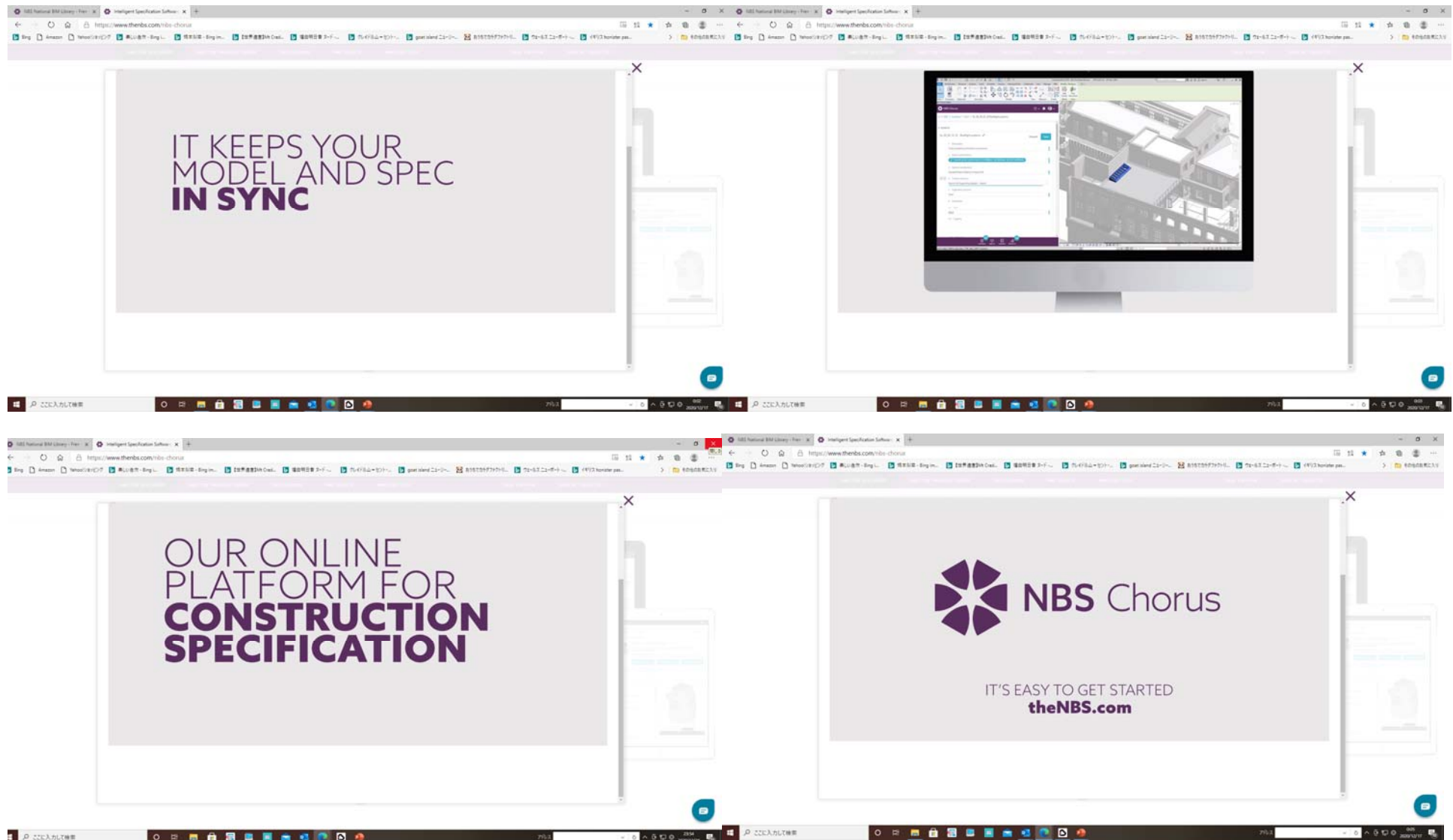
What could you save?



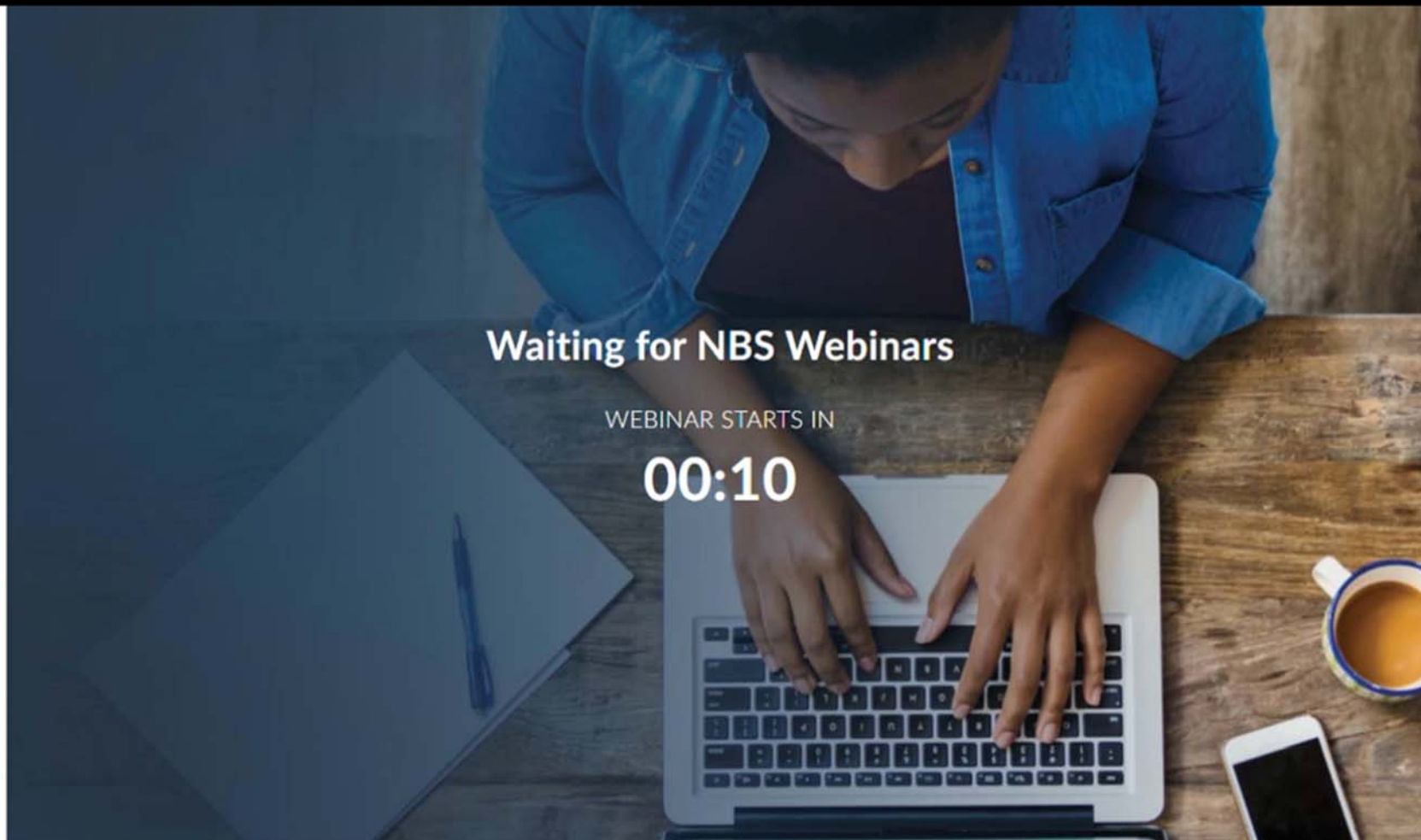
NBS Chorusについて(その3)



NBS Chorusについて(その4)



NBS Chorusについて(その5)

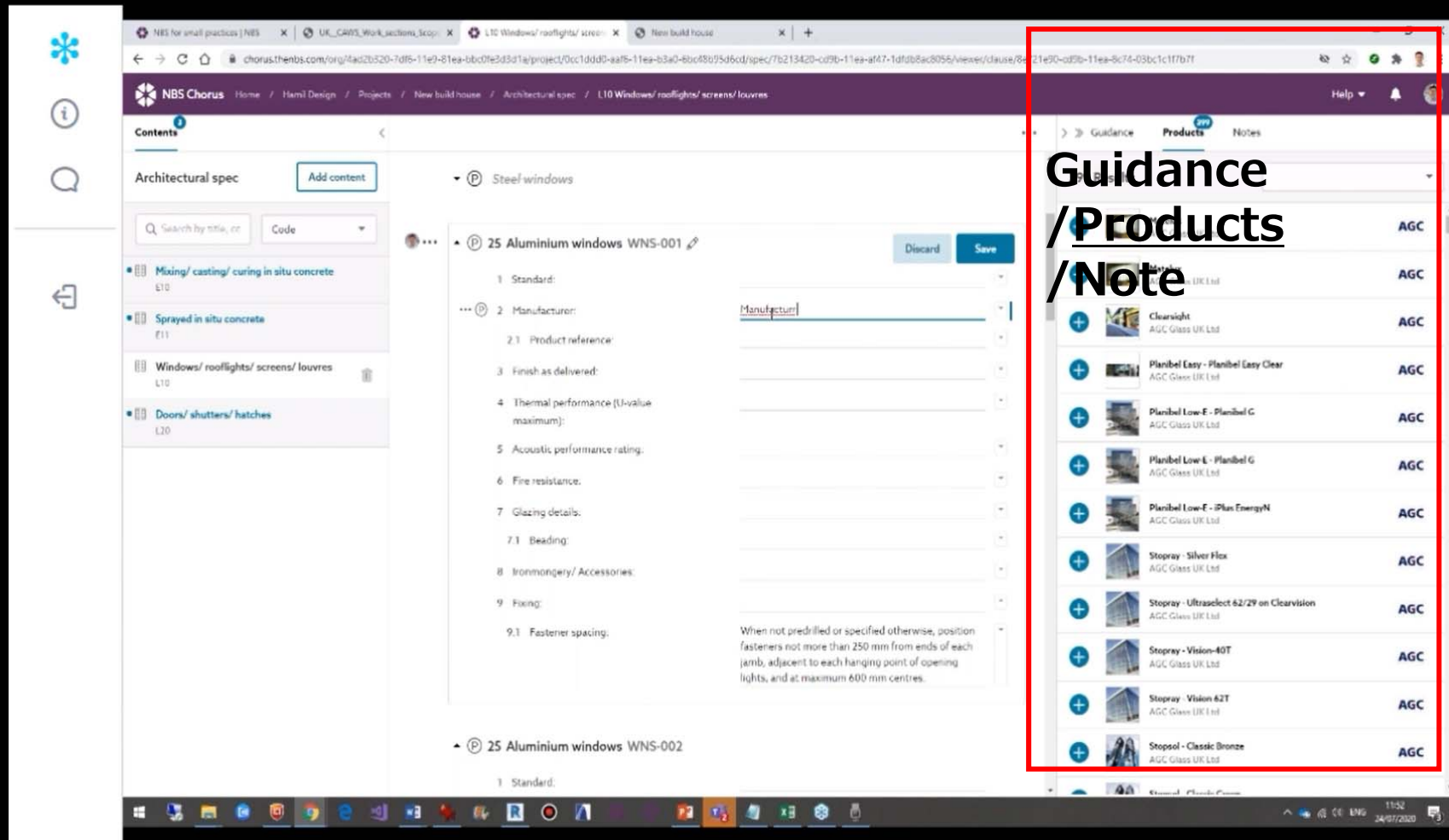


NBS Chorusについて(その6)

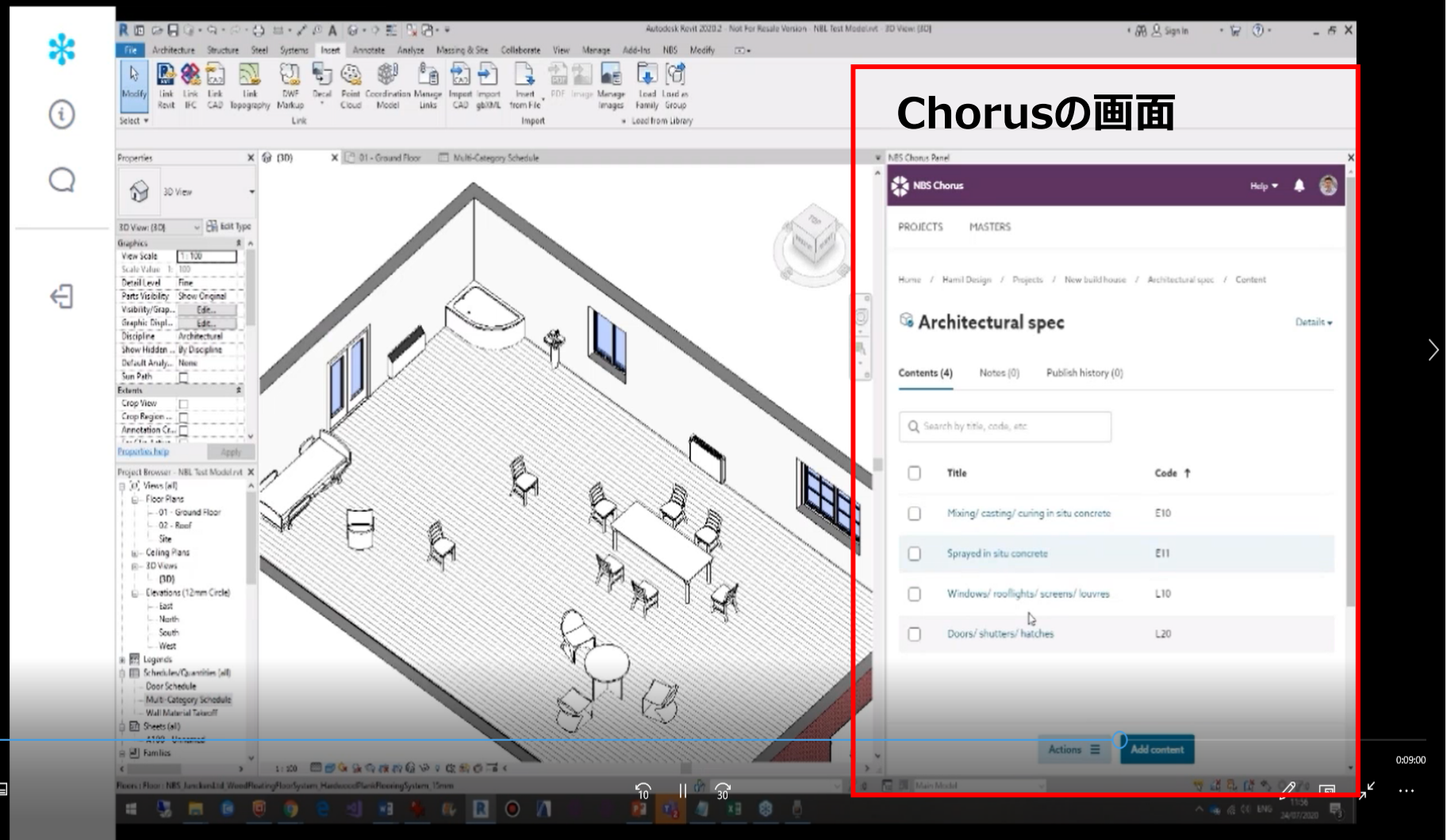
The screenshot displays the NBS Chorus web application interface. It is divided into three main sections, each highlighted with a red border:

- Contents(内容):** Located on the left, it shows a sidebar with a search bar and a list of project documents. The list includes items like "Project particulars", "Tender and contract documents", "The site/ existing buildings", "Description of the work", "JCT minor work building contract (MW)", "Tendering/ subletting/ supply", "Provision, content and use of docume...", "Management of the works", "Quality standards/ control", "Security/ safety/ protection", and "Specific limitations on method/ seque...".
- Notifiable(留意すべきこと):** The central section displays a list of terms used in a specification. The list includes: "1 Remove:", "2 Remediate:", "3 Fix:", "4 Supply and fix:", "5 Keep for reuse:", and "6 Keep for recycling:". Each term is followed by a detailed description of the action or measure.
- Guidance /Products /Note:** Located on the right, it provides detailed guidance for the terms used in the specification. It includes sections for "Remove:", "Keep for reuse:", "NB: to reuse an item is to use it again after it has already been used.", "Make good:", "Reinstate/ renovate/ restore:", "Repair window frame:", "Replace window sill:", "Replace 2 m² plaster:", "To apply the terms to complete elements, e.g. Repair window:", "Ease:", and "Paul Swaddle: Hi Stephen, might be good to show the excavating members of action."

NBS Chorusについて(その7)



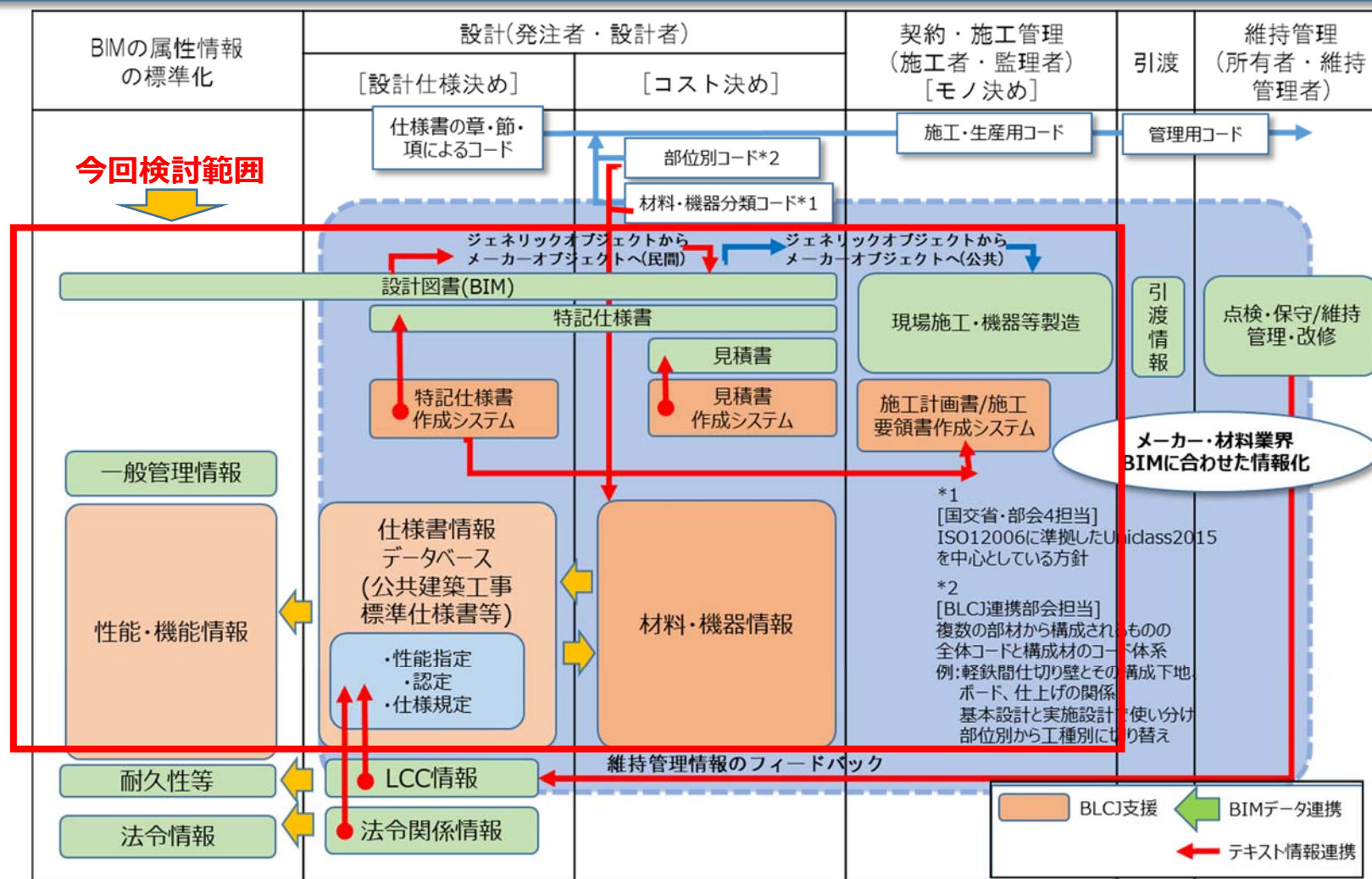
NBS Chorusについて(その8)



(参考)標準仕様書との連携の仕組みのイメージ及びそのメリット

BIMの属性情報の標準化と標準仕様書との連携のメリットは、次のことが考えられます。

- ・BIMの属性情報の標準は、そこに含まれる情報と様々な業務との連携が飛躍的に拡大されます。(例：標準仕様書、建築確認等)
 - ・標準仕様書との連携は、特記仕様書、見積・積算、調達、施工について、分類コード等を軸としたデジタル化を促進する可能性があります。
- 2020年度、2021年度には、この領域を集中的に調査検討を進めます。参考として以下に現在検討中の情報の流れを示します。





ユースケース1 アルミニウム製建具（窓）の仕様を決める

標準仕様書で特記が必要な項目一覧を見て、順番に記載していく

《必要な情報》

特記項目一覧

- ・1節 一般事項の特記項目
 - ・2節 アルミニウム製建具の特記項目
 - ・7節 建具用金物の特記項目
 - ・13節 ガラスの特記項目
- ＜断熱サッシの＞

《必要な情報》

・16.1.4 見本の製作等

(a) 建具見本の製作は特記による。

→・製作する ・製作しない →参考情報「監理指針16.1.4」

16.1.4 見本の製作等

特別注文の建具が特記される場合等では、その製作に先立ち、性能と機能を確認するため見本品が製作されることがある。特記により建具見本品を製作する場合は、見本品の製作期間と性能（水密性、気密性、強度、遮音性等）、機能（開閉等）の確認試験期間を製作工程に見込む必要がある。

■仕様書の情報のまとめ方

- ・全体をWORDで
- ・章単位をWORDで
- ・節単位をWORDで

→システム的には2通りを用意して作業に合わせて選択することで対応、ストレージ増もコスト負担は問題でない
10GBのストレージのリースコスト120万円/年

標準仕様書では記が必要とされていないが、各種の性能確保の観点から記載が必要な内容を特記する

《必要な情報》

上乘せする必要がある特記項目

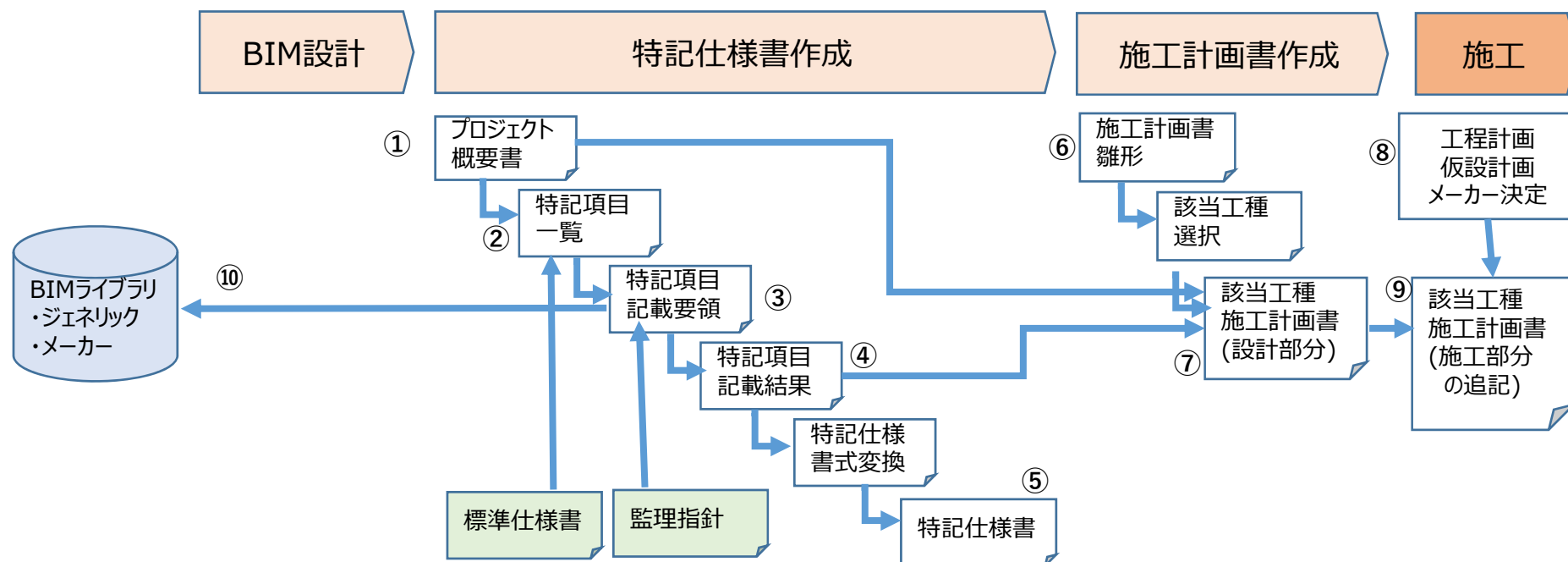
(各社各自の実績、失敗から作成しているが、これにメーカーの意見を加える)
(あるものは施工段階でメーカーに確認されている)

例:建具の中の補強フレームを鋼製かステンレス製か

断熱サッシの断熱材は必要ならば膳板の部分にも入れる 等々

設計-標準仕様書-特記仕様書-施工計画書のデータの流れ

属性情報ID		BIMライブラリ	設計	プロジェクト概要書	特記項目一覧	記載要領	特記記載結果	書式変化	特記仕様書	施工計画書(雛形)	工種選択	施工計画書(設計)	メーカー決定等	施工計画書(施工)
プロジェクトID			●	→●	→●		→●		→●	→●		→●		→●
オブジェクトID		●	→●											
仕様書年版		●	→●	→●	→●		→●		→●	→●		→●		→●
仕様書の章・節・項ID		●追加	→●		→●		→●		→●	→●		→●		→●
監理指針の章・節・項ID						●								
企業ID	公共プロジェクト	●	(→●)											
	民間プロジェクト	●	→●											
製品グループ		●	→●											
製品ID	公共プロジェクト	●	(→●)											
	民間プロジェクト	●	→●											



①プロジェクト概要書

1	プロジェクト名(プロジェクトID)		
2	工事名称		
3	工事場所/地名地番		
4	階数		
5	構造・規模		
6	延べ面積/建築面積		
7	建築物の高さ		
8	発注者名		
9	設計者		
10	監理者		
11	施工者		
12	工事種目		・新築 ・増築 ・改築 ・その他()
13	工事期間		工事着手 年 月 日 完成引渡し 年 月 日 (延べ カ月)
14	部分使用・部分引渡し		・あり ・なし 範囲 期日 年 月 日
15	工事範囲(工事項目)		・
16	敷地及び法的規制等	地域・地区	1)都市計画区域等 ・都市計画区域 (・市街化区域・市街化調整区域・非線引き区域) ・都市計画区域外 (・準都市計画区域・未定区域) 2)防火地域 ・防火地域 ・準防火地域 ・指定なし 3)用途地域 () 4)その他 (高度地区、法22条区域等を記入)
		容積率	容積率制限()% (用途地域が2以上の場合の算定式等を記入)
		建蔽率	建蔽率制限 ()% (用途地域が2以上の場合の算定式等を記入)
		建築基準法の主要用途	
		耐火建築物	・耐火建築物 ・準耐火建築物 () ・ () ・その他
		消防法の防火対象物	()項
		その他	1)検証法適用の有無 ・避難安全検証法・耐火性能検証法・なし 2)CASBEE目標ランク ・S・A・B+・なし

②③④特記項目一覧、記載要領、記載結果 (16章建具工事 アルミニウム製建具)

章	節	項	タイトル	……	特記事項	特記項目記載結果	参照	監理指針 参照先	アル ミ 建 具	鋼 製 建 具	● 建 具																
16	1	3	防火戸	(3)	防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、ヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器と連動させる場合は、特記による。なお、防煙シャッターの場合は、煙感知器と連動するものとする。	・熱感知器又は煙感知器と連動させる ・熱感知器又は煙感知器と連動させない			●	●																	
16	1	4	見本の製作等	(1)	建具見本の製作は、特記による。	・製作する ・製作しない	特別注文の場合	16.1.4	●	●																	
16	1	4	見本の製作等	(2)	仮組の実施は、特記による。	・行う ・行わない	特別注文の場合	16.1.4	●	●																	
16	1	6	その他	(2)	「開口部の侵入防止対策上有効な措置が講じられた「防犯建物部品」の適用は特記による。	・防犯建具部品 ・防犯建具部品以外		16.1.6	●	●																	
16	2	2	性能及び構造	(2)(ア)	耐風圧性、気密性及び水密性の等級並びに枠の見込み寸法は、特記による。特記がなければ、外部に面する建具をコンクリート系下地又は鉄骨下地に取り付ける場合は、表16.2.1、木下地に取り付ける場合は、表16.2.2 により、種別は特記による。	表16.2.1 <table><tr><th></th><th>耐風圧性</th><th>気密性</th><th>水密性</th><th>枠見込み</th></tr><tr><td>A種</td><td>S-4</td><td rowspan="2">A-3</td><td rowspan="2">W-4</td><td rowspan="2">70*</td></tr><tr><td>B種</td><td>S-5</td></tr><tr><td>C種</td><td>S-6</td><td>A-4</td><td>W-5</td><td>100</td></tr></table>		耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み	A種	S-4	A-3	W-4	70*	B種	S-5	C種	S-6	A-4	W-5	100	16.1.7, 16.2.2	●	●	
	耐風圧性	気密性	水密性	枠見込み																							
A種	S-4	A-3	W-4	70*																							
B種	S-5																										
C種	S-6	A-4	W-5	100																							
16	2	2	性能及び構造	(2)(イ)	防音ドア、防音サッシとする場合の遮音性の等級は、特記による。			16.1.7(1)(工)	●	●																	
16	2	2		(2)(ウ)	断熱ドア、断熱サッシとする場合の断熱性の等級は、特記による。	JIS A4702または JIS A4706断熱性の等級	JIS A4702 JIS A4706	16.1.7(1)(オ)	●	●																	
16	2	2		(2)(エ)	耐震ドアとする場合の面内変形追随性の等級は、特記による。	面内変形追随性の等級	ドアセットの相関変異に対する安全性16.4.2(5)	16.1.7(1)(カ)	●																		
16	2	3	材料	(5)(イ)	防虫網は、合成樹脂製、ガラス繊維入り合成樹脂製又はステンレス (SUS316) 製とし、材質、線径及び網目は特記による。特記がなければ、合成樹脂製とし、合成樹脂の線径は0.25mm以上、網目は16～18 メッシュとする。	防虫網の材質 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 線径 網目			●																		
16	2	3		(5)(ウ)	防鳥網は、ステンレス (SUS304) 線材、線径は1.5mm、網目寸法は15mm とし、適用は特記による。	・防鳥網を適用する ・防鳥網を適用しない			●																		
16	2	4	形状及び仕上	(2)	建具の枠の見込み寸法は、特記による。特記がなければ、外部に面する建具は、表16.2.1又は表16.2.2 による。				●																		
					【以下続く】																						

⑤特記仕様書(表示様式は今後検討)

章	節	項	タイトル	……	特記項目記載結果
16	1	3	防火戸	(3)	・熱感知器又は煙感知器と連動させる ・熱感知器又は煙感知器と連動させない
16	1	4	見本の製作等	(1)	・製作する ・製作しない
16	1	4	見本の製作等	(2)	・行う ・行わない
16	1	6	その他	(2)	・防犯建具部品 ・防犯建具部品以外
16	2	2	性能及び構造	(2)(ア)	表16.2.1
16	2	2	性能及び構造	(2)(イ)	
16	2	2		(2)(ウ)	JIS A4702または JIS A4706断熱性の等級
16	2	2		(2)(エ)	面内変形追随性の等級
16	2	3	材料	(5)(イ)	防虫網の材質 ・合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製 線径 網目
16	2	3		(5)(ウ)	・防鳥網を適用する ・防鳥網を適用しない
16	2	4	形状及び仕上	(2)	

⑤施工計画書(施工要領)(建具工事の雛形)

表16.1.2 施工計画書の記載事項(建築工事監理指針より)

	記載項目	記載事項	設計者	施工者	参照先
1	工事概要	工事名称、場所、建築主、設計・監理者名、施工会社	●		プロジェクト概要書
2	工事範囲	取付け場所(方位、階別等)	●		建具表(建具種別)、立面図、平面図
3	管理体制	建具の製造所及び施工者の管理組織表、連絡先		●	
4	工程表	製作及び現場の施工日程・手順・作業内容		●	
5	試用材料の名称・規格*	部品、部材、付属部品及びその使用箇所	●a)	●b)	「仕様書16.2.3材料」 a)主要な部品、部材 b)その他
6	製作者・製作工場	工場名称、所在地		●	
7	施工及び組立*	材料加工の方法、接合法、組立要領		●	「仕様書16.2.5工法」
8	製品の検査*	検査方法、検査項目、検査基準	●a)	●b)	a)要求性能、寸法 b)検査方法
9	防食・防錆処理*	防食・防錆の方法、材料	●a)	●b)	a)要求性能 b)その他
10	運搬	搬入方法、現場内保管方法		●	
11	取付け精度・要領*	取付け方法、精度、取付け検査方法、検査基準	●a)	●b)	「仕様書16.1.5取付け調整等」 a)要求取付け精度を示す場合 b)その他
12	養生・清掃	養生・清掃方法		●	
13	安全管理	管理体制、安全点検、作業環境整備		●	

⑥⑦⑨施工計画書(雛形、設計者記載の部分)

凡例：グレー彩色部分は施工者記載部分

1	工事概要	1	プロジェクト名(プロジェクトID)	
		2	工事名称	
		3	工事場所/地名地番	
		4	階数	
		5	構造・規模	
		6	延べ面積/建築面積	
		7	建築物の高さ	
		8	発注者名(建築主)	
		9	設計者	
		10	監理者	
		11	施工者(元請業者)	
		12	工事種目	・新築 ・増築 ・改築 ・その他()
		13	工事期間	工事着手 年 月 日 完成引渡し 年 月 日 (延べ カ月)
		14	部分使用・部分引渡し	・あり ・なし 範囲 期日 年 月 日
		15	工事範囲(工事項目)	・
2	工事範囲	建具種別と個数(建具表)		
		建具取付け場所をすべての立面図(及び平面図)で、建具種別を記載して作成		

3	管理体制	建具の製造所及び施工者の管理組織表、連絡先
		建具の製造所及び施工者の管理組織表、連絡先
4	工程表	製作及び現場の施工日程・手順・作業内容
5	試用材料の名称・規格*	部品、部材及びその使用箇所
		付属品及びその使用箇所
6	製作者・製作工場	製作工場名称
		所在地、連絡先担当者
7	施工及び組立*	材料加工の方法、接合法、組立要領

8	製品の検査*	要求品質
		検査方法、検査項目、検査基準
9	防食・防錆処理*	要求品質
		防食・防錆の方法、材料
10	運搬	搬入方法、現場内保管方法
11	取付け精度・要領*	要求取付け精度(指定する場合)
		取付け方法、精度、取付け検査方法、検査基準
12	養生・清掃	養生・清掃方法
13	安全管理	管理体制、安全点検、作業環境整備

BLCJ

2021/4/27

配信環境のイメージ

